Panasonic

保管用

ワイヤリングフロア
FPR3000/ FPZ3000

施工説明書
取扱説明書

●お買い上げありがとうございました。
●施工前にこの施工説明書を必ずお読みの上、正しく施工してください。
●この施工説明書・取扱説明書は必ず保管してください。

パナソニック株式会社

安全に関するご注意

施工・ご使用前に必ずお読みください。

フルワイヤリングフロアシステムの安全に関するご注意

⚠ 警告

禁止	●商品の改造、部品の追加はしないでください ～火災・感電・破損の原因となります～	禁止	●通電状態で結線作業を行わないでください ～感電の原因となります～
禁止	●負荷容量を超えて使用しないでください ～発熱による火災の原因となります～	必ず守る	●プラグは確実に差し込んでください ～発熱による火災・感電の原因となります～

⚠ 注意

禁止	●配線器具、OAタップ類は事務所の出入口および通路部に取り付けないでください ～人のつまずき・破損の原因となります～	必ず守る	●結線は確実に行ってください ～発熱による火災の原因となります～
禁止	●フロアパネル施工、保管時に火気を近づけないで下さい ～火災の原因となります～	必ず守る	●フロアパネル切断機（ロンターマシンなど）でパネルを切断するときは、保護具を着用してください ～目・手指をケガするおそれがあります～
必ず守る	●フロアパネル使用時は必ず仕上材（タイルカーペット等）と合わせてご利用ください ～ケガや事故の原因になります～	必ず守る	●収納機能のある部品は使用しないときには収納してください ～人がつまずき、ケガをする原因となります～
必ず守る	●フロアパネルを取り扱う時は、保護具を着用してください ～パネルにはさまれるなどケガをする原因となります～	必ず守る	●容易に点検できる乾燥した場所でご使用ください ～守らないと、火災・感電の原因となります～
必ず守る	●台車に段積みして運搬する場合、バンド等でズレないよう固定してください ～パネルがズレて落下し、足をケガするおそれがあります～	必ず守る	●タイルカーペットを敷設した状態で水などを使用して清掃しないでください ～漏電の原因となります～
必ず守る	●接地工事を行ってください ～守らないと、感電の原因となります～	必ず守る	●電源プラグのほこりなどは定期的に取ってください ～プラグにほこりがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります～

安全に関するご注意（つづき）

施工作業前に必ずお読みください。

施工上のご注意

●施工説明書に従い正しく施工してください
～施工に不備があると、がたつき・変形・破損の原因となります～

●下地は湿気のない平坦かつ堅牢なものとし、適切な施工環境を維持してください
ワックス、グリス、油等は完全に除去してください
～フロアパネルががたつく原因となります～

●タイルカーペットの敷設はずらし貼りにして下さい
その際パネルヒンジ部にタイルカーペットのつなぎ目が掛からないようにして下さい
～1：1貼りの場合、段差やカーペットの目地が目立つことがあります～

● ワイヤリングフロアFPZ3000を施工する場合、敷設前に、包装ラベルを剥がしてください。
～ケーブル配線ができなくなります～

●必ず基準線を墨出してから、パネルを敷設してください。
～音鳴りの原因となります～

●フロアパネルとパネル連結リングを交互に施工してください。
～音鳴りの原因となります～

●重量物を搬送する場合は、パネル上に合板（厚さ12mm以上）などを敷いて行ってください
～変形・破損の原因となります～

●配線器具の施工には、電気工事士の資格が必要です

● フロア内の配線工事は、内線規定451節「フリーアクセスフロア内のケーブル配線」に従い施工してください

●配線器具類は、パネルにしっかりと固定してください
～ケーブルの抜け・損傷の原因となります～

安全に関するご注意（つづき）

ご使用前に必ずお読みください。

使用上のご注意

●取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください

●一般屋内専用パネルであり、温度5～35℃、湿度45～85%で使用してください
～変形のおそれがあります～

●歩行時に異常を感じた場合は、早めに担当の施工業者様あるいは当社にお問い合わせください

●耐荷重性能を超える用途で使用しないでください

●局部的または長期的に重いものをのせる場合は、合板などによる荷重の分散、あるいは補強対策をしてください
～変形・破損の原因となります～

●重いものを落としたり、飛び降りたりしないでください
～変形・破損の原因となります～

●廊下、出入口等の人の往来が激しい場所では、使用を避けるか、あるいは補強対策をしてください
～変形・破損の原因となります～

●通線口が不要になった場合は、カバーを90°回転させて 通線口を半丸型に戻してください。
※現場状況により、半円型に戻せない場合は、ワイヤリングフロア通線口塞ぎプレート(NE88420)で、塞いでください。
～ハイヒールが落ち込み、ケガをする原因となります。～

●床下と床上空間に気圧差が生じた場合、タイルカーペットに汚れが発生することがあります（フィルター現象）
その場合は、グレーチングパネル（特注）等を設置し、空気抜きを行ってください

●配線器具類に台車等でぶつけるあるいは蹴るなど強い衝撃を与えないでください
～変形・破損の原因となります～

●適合するプラグを使用してください
～変形・破損の原因となります～

●タイルカーペットは定期的にメンテナンスを行ってください
～汚れのこびりつきの原因となります～

●酸・アルカリ等の薬品をフロアパネルに付着させないでください
～変形・破損の原因となります～

●よごれなどをふき取る場合は、中性洗剤を使用してください
～変色・しみの原因となります～

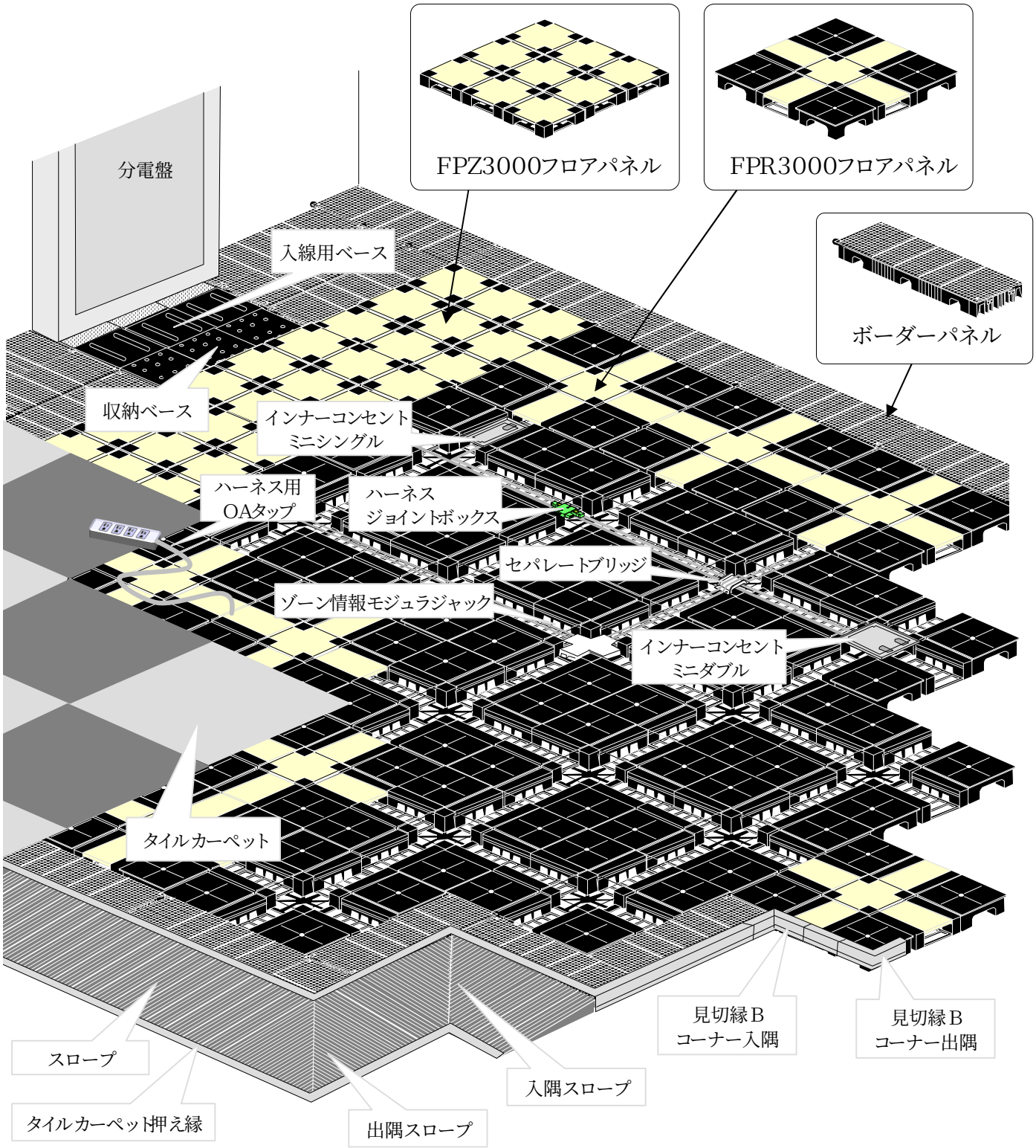
目次

- 安全に関するご注意 …… 2
  - フルワイヤリングフロアシステムの安全に関するご注意 …… 2
  - 施工上のご注意 …… 3
  - 使用上のご注意 …… 4
- 目次 …… 5
- システム構成 …… 6
  - 1 分岐ケーブル方式 …… 6
  - 2 幹線ケーブル方式 …… 7
- 施工図の作成 …… 8
  - 1 平面計画図に基づく施工図の作成 …… 8
- 施工前の準備 …… 9
  - 1 床面下地の仕上がり状態チェック …… 9
  - 2 施工図の確認と必要工具の準備 …… 9
  - 3 施工部材の確認と必要工具の準備 …… 9
  - 4 清掃 …… 9
  - 5 保管・配送 …… 9
- 施工に必要な工具 …… 10
  - 1 フロア施工用 …… 10
  - 2 清掃具 …… 10
  - 3 タイルカーペット施工用工具 …… 10
  - 4 その他 …… 10
- 施工に必要な部材 …… 11
  - 1 フロア部材 …… 11
  - 2 ボーダー（壁際）部材 …… 11
  - 3 表面仕上げ部材 …… 11
  - 4 その他部材 …… 11
- 施工手順 …… 12
  - 1 材料搬入・仮置き …… 12
  - 2 クッションシートの敷設 …… 12
  - 3 墨出し …… 13
  - 4 フロアパネルの敷設 …… 13
  - 5 ボーダーパネルの切断加工 …… 15
  - 6 ボーダーパネルの敷設 …… 16
  - 7 壁面収納棚を設置する場合の施工 …… 18
  - 8 スロープ・かまちの施工例 …… 19
  - 9 出隅スロープ・入隅スロープの施工例 …… 20
  - 10 入線ベース・収納ベース置敷収納パネル・FPZ3000フロアパネルの施工例 …… 21
  - 11 タイルカーペットの敷設 …… 22
  - 12 配線工事 …… 24
  - 13 ジョイントボックスの取付 …… 26
  - 14 ハーネス用OAタップのフロア上への取り出し …… 26
  - 15 各種ワイヤリング機器の取付 …… 28
  - メンテナンス …… 29
- 施工自主検査基準書／成績書 …… 30
- ワイヤリングフロア撤去・廃棄に関して …… 31
- お問い合わせ …… 32

システム構成

ワイヤリングフロア　FPR3000・FPZ3000のシステム構成は下記の通りです。

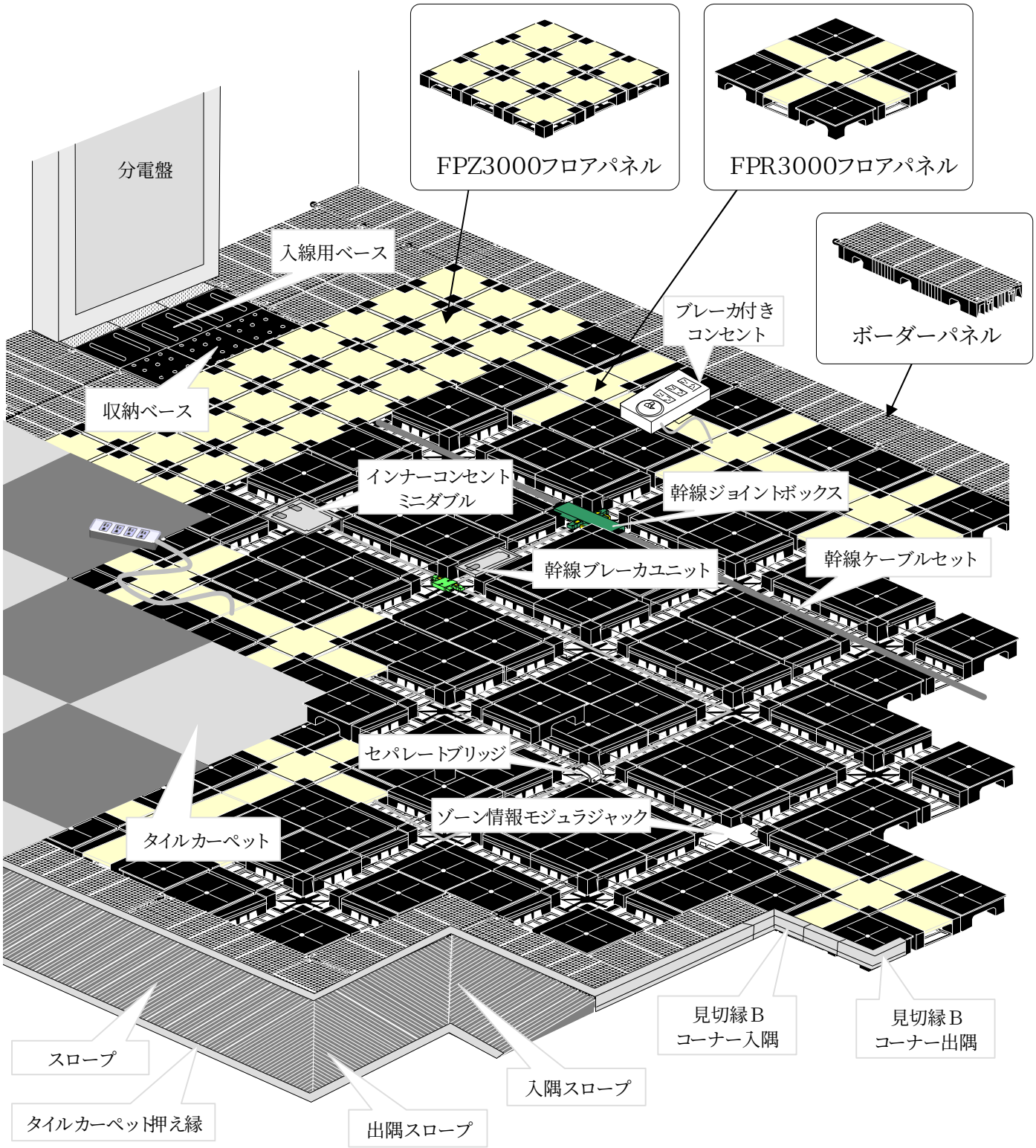
1 分岐ケーブル方式



システム構成

ワイヤリングフロア　FPR3000・FPZ3000のシステム構成は下記の通りです。

2 幹線ケーブル方式



施工図の作成

1 平面計画図に基づく施工図の作成

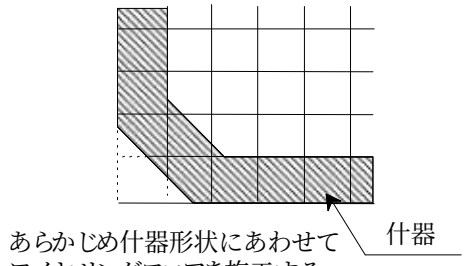
① 事前打合せ

ケーブルの立ち上がり位置（分電盤等の位置）、什器の位置、床用アウトレットの位置等を、お施主様と事前に打合せ・確認をしておいて下さい。確認が不足すると施工後、修正が発生し、費用アップの原因となります。

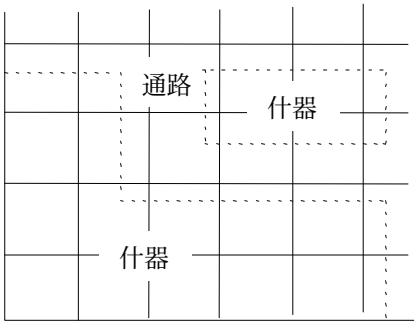
確認事項

① ケーブルの立ち上がり部（分電盤等）の位置は、ケーブルが集中する為、入線量を確認してください。（フロアパネルFPZ3000、入線ベースなどの数量確認）

② ワイヤリングフロアの施工範囲は、什器形状（特にカウンター、間仕切り等）に合わせて決めて下さい。また、什器は、フロアパネルの上に載せるか、施工前床面に載せるか確認してください。

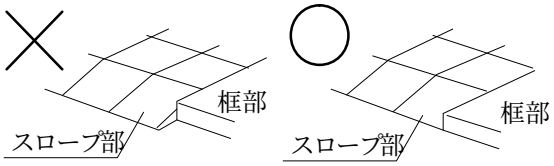


③ 床用アウトレットの位置は什器の位置や通路の位置等を考慮して決定してください。



注意

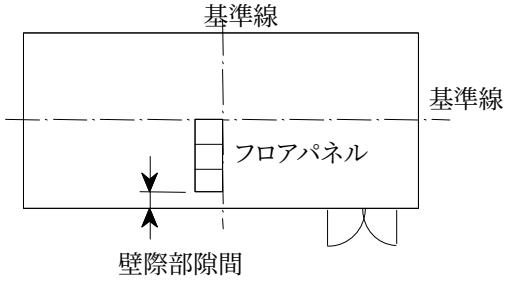
① **スロープは歩行時につまづかない形状に仕上げてください。**



② 基準線の設定

基準線は部屋の中央を原則としてください。ただし、壁の直線が確保されている場合は、壁を基準線にすることもできます。また部屋が小さい場合には、出入り口を基準線にすることもあります。

壁際部隙間を確認し、小さい場合（22mm未満）は基準線を250mmずらします。



③ 平面計画図の確認

新築の場合は平面計画図にもとづき施工図を作成しますが、リニューアルの場合は、設置機器の位置・ケーブルの立ち上がり位置等を現場でチェック・寸法測定した後、施工図を作成してください。

施工前の準備

1 床面下地の仕上がり状態チェック

1. 新築床の場合、床面下地はビニルタイル仕上げする場合と同程度に仕上がっているか確認してください。（金ゴテ仕上げ ＝ 3／1000mm 以内）
2. リニューアルの場合、ビニルタイルの除去は不要ですが、ビニルタイルが破損していると、がたつきの原因となりますので補修してください。
3. 床面下地の仕上がり状態をチェックし、突起物は除去してください。

2 施工図の確認及び基準線の設定

1. 施工図と現場の実寸法が合致しているか確認します。

3 施工部材の確認と必要工具の準備

1. 搬入された施工部材数量に不足がないか確認します。
2. 施工に必要な工具類を準備します。（次ページ参照）

4 清掃

1. **施工する前に床面を掃除機等で清掃してください。**

5 保管・配送時の注意事項

1. 保管・配送する場合は、平積みしてください。斜め積み、縦積みするとパネルが変形する恐れがあります。

2. 直射日光のふりそそぐ場所やストーブ前での長時間放置は避けてください。
パネルが変形するおそれがあります。
～製品温度が60℃以上になると変形して、施工できなくなります～

3. 夏場、トラック荷台やライトバンに長時間放置しないでください
パネルが変形するおそれがあります
～製品温度が60℃以上になると変形して、施工できなくなります～

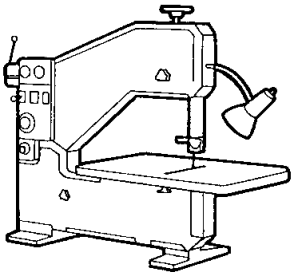
施工に必要な工具

施工に必要な工具は下記の通りです。

1 フロア施工用

1. サンダー ―――――――――― 床面（下地）調整用
2. 墨壷、巻尺、チョークなど ―― 墨だし用
3. フロアパネル切断機 ―――― 壁際部フロアパネル切断用
   （コンターマシン・電動丸ノコなど）

～コンターマシン～



切断スピードはダイヤモンドカッターほど速くありませんが、水をかけなくてよいこと、粉塵の少ない等の特長があります。

切断刃は、コネチカット社製バイメタル
SKH 6mm幅×12山／インチ
または前記他社相当品をおすすめします。

4. 充電ドライバー ―――――― ワイヤリング機器やその他部材の固定用
5. コンクリートドリル ―――― 見切縁などのアンカー固定用

2 清掃具

1. ホウキ・掃除機など

3 タイルカーペット施工用工具

1. カッター ―――――――――― タイルカーペット切断用
2. 粘着剤塗布用ローラー

4 その他

1. 一般工具（ドライバー、ニッパー等）
2. 水準器

施工に必要な部材

施工に必要な部材は下記の通りです。ご調達・ご用意ください。

1 フロア部材

1. フロアパネル（一式）
   - ●FPR3000フロアパネル
   - ●FPZ3000フロアパネル
2. クッションシート（NE19202,NE19205）
3. パネル連結リング（NE11824K）

2 ボーダー（壁際）部材

1. ボーダーパネル(NE19260K)
   ～ボーダーパネル仕上げの場合～

3 表面仕上げ部材

1. タイルカーペット
   - ●タイルカーペット（粘着剤なし）
   - または
   - ●タイルカーペット（粘着剤付）
   - ※タイルカーペットは色調により、品番が異なっています。
2. タイルカーペット粘着剤（NE68002K）
3. タイルカーペット粘着テープ（DJ19210）

4 その他部材

1. フレキシブルボーダー・スロープ・カマチなどの部材一式
2. 配線部材・アウトレットなどの部材一式

施工手順

1 材料搬入・仮置き

1 フロアパネルなどの施工部材を施工場所へ搬入・仮置きします。

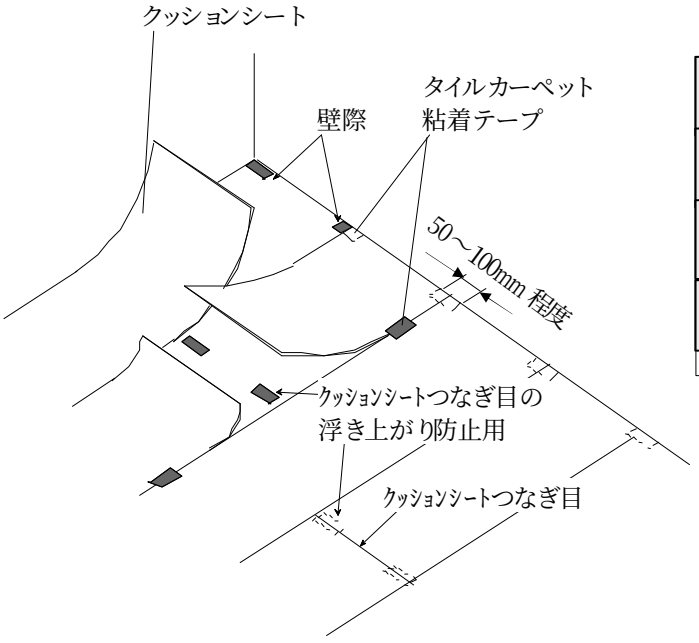
注意

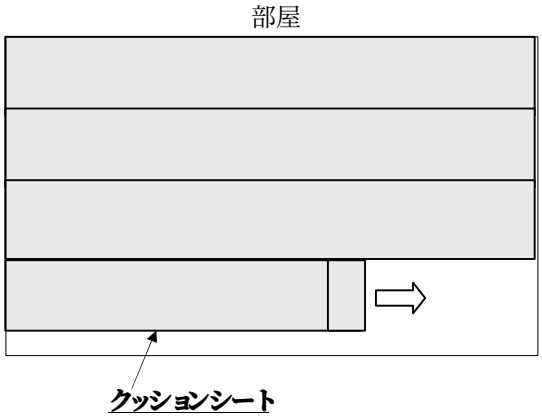
① 部材（フロアパネルなど）は投げないでください。
～破損・けがの原因となります～

② 部材の仮置き位置は建物の梁の上か、または 建物の床強度を越えないよう分散して置いてください。
～部材重量が床面強度を超えると、建物に影響がある場合があります～

2 クッションシートの敷設

1 クッションシートまたは、既設床とフロアパネルをなじませ優しい歩行感をもたらします。
クッションシート相互は、重ならないように、また隙間は 5㎜以下となるように注意して下さい。
クッションシートは図のようにタイルカーペット粘着テープを用いて施工して下さい。
端部はクッションシートをカッターなどでカットして敷設します。





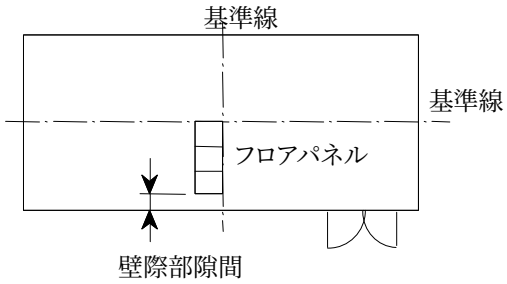
注意

① 注）テナントビル等は、退去時現状復帰が通例であり、クッションシートをはがした時に下地材を損傷させないようにできるだけテープを貼る場所、量等はクッションシート のつなぎ目等を除き目立たないように（壁際等）で行って下さい。

施工手順（つづき）

3 墨だし

① 基準線は部屋の中央にして墨出しを行います。部屋の内寸法を測定し、二等分した基準線を場合の壁際部隙間寸法（フロアパネルを敷設していった場合の壁際の余り部の寸法）を確認してください。
●壁際部隙間が小さい場合（22mm未満）は基準線を250mmずらします。



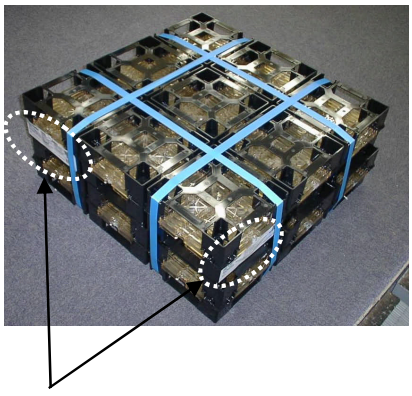
注意

① 基準線は部屋の中央を原則としてください。ただし、部屋が小さい場合には、出入口を基準線にすることもあります。その場合も壁際の隙間が小さくならないように注意してください。

4 フロアパネルの敷設

① 敷設前準備

・梱包状態からPPバンドを切って、開梱してください。
・ワイヤリングフロアFPZ3000を施工する場合、敷設前に、下図に示した包装ラベルを剥がしてください。

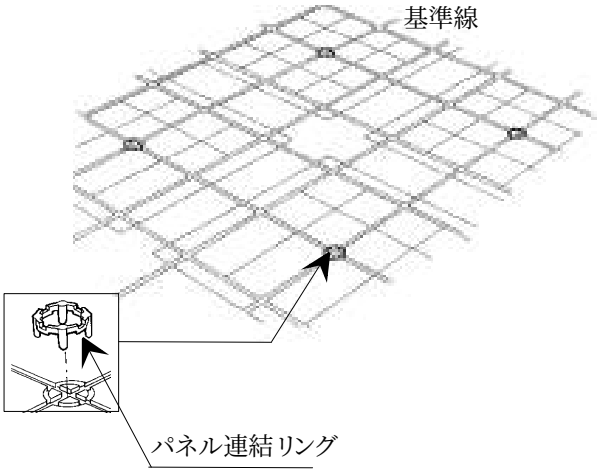


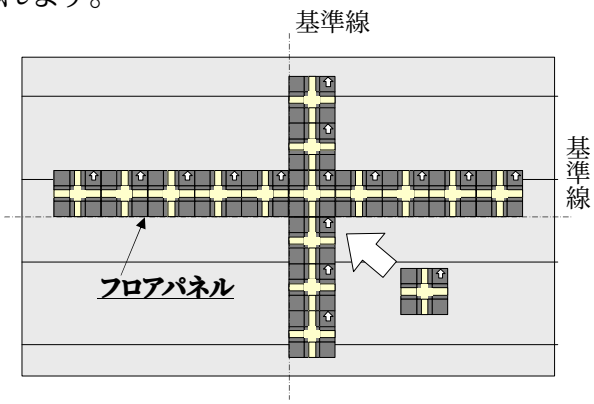
包装ラベル　**＊パネル1梱包（パネル4枚分）につき2箇所剥がしてください。**

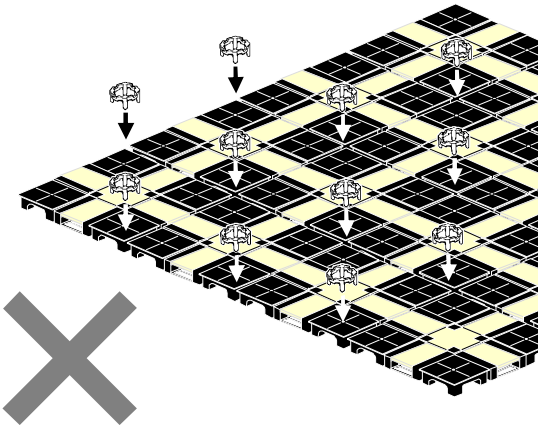
注意）包装ラベルを剥がさないとケーブル配線ができなくなります

施工手順 (つづき)

② フロアパネルを基準線より敷き広げます。
基準線に接する縦横一列は動かさないようにご注意下さい。フロアパネル表面の矢印（⇧）刻印を目印に一定方向に敷設して下さい。
フロアパネルのズレを防止して正確に位置決めができるよう、フロアパネル 4枚が合わさるコーナーに、パネル連結リングを入れます。

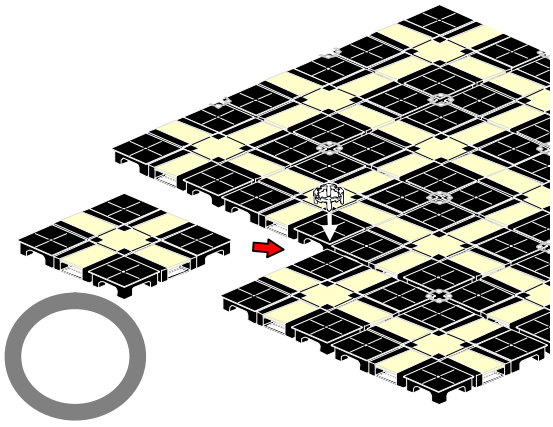






フロアパネルを敷き詰めた後で

まとめてパネル連結リングを取り付けないでください。



フロアパネルを1枚ずつ敷き詰める毎にパネル連結リング1個の取り付けを行ってください。

注意

① 必ず基準線を墨出してからパネルを敷設してください。
～守らないと、音鳴りの原因となります～

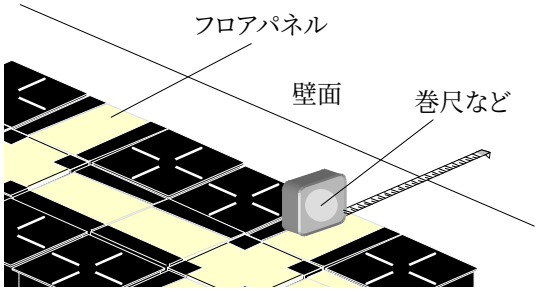
②フロアパネルの向きは一定方向にしてください。
～通線口が形成されるため、女性のハイヒールの落ち込み 転倒の原因になります～

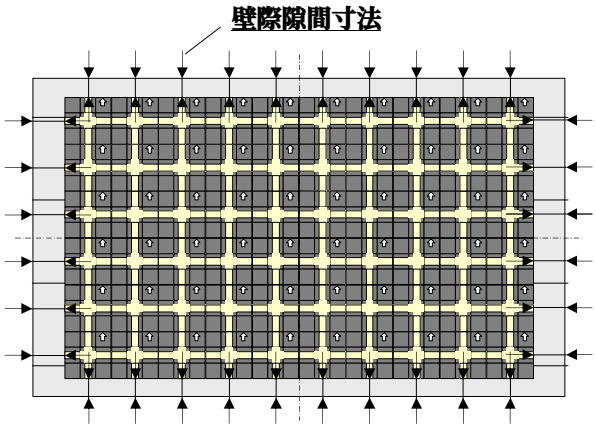
③ フロアパネルを敷設する際，パネルコーナーの目地を合わせ都度，連結リングを入れてください。
～守らないと、パネル目地がズレ，パネルの突き上げ，音鳴りの原因になります～

施工手順（つづき）

5 ボーダーパネルの切断加工

❶ ボーダー（壁際）部の隙間を巻尺などで測定します。
（後にボーダー部材をカットし敷設する為の測寸です。結果はメモしてください。）

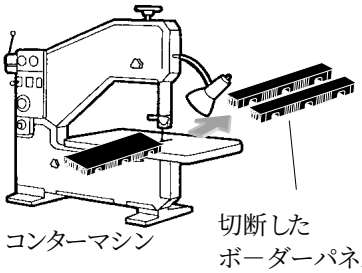


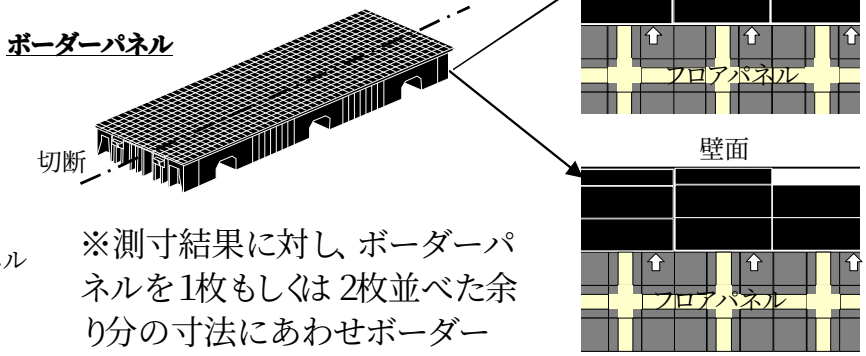


注意

① 真四角な部屋であっても建築寸法バラツキ・フロア施工バラツキで各箇所の壁際隙間寸法は異なってきますのでボーダーパネルが敷設される全ての箇所を測定してください。

❷ 測寸結果に合わせフロアパネルをコンターマシンなどの切断機を用い、切断加工します。



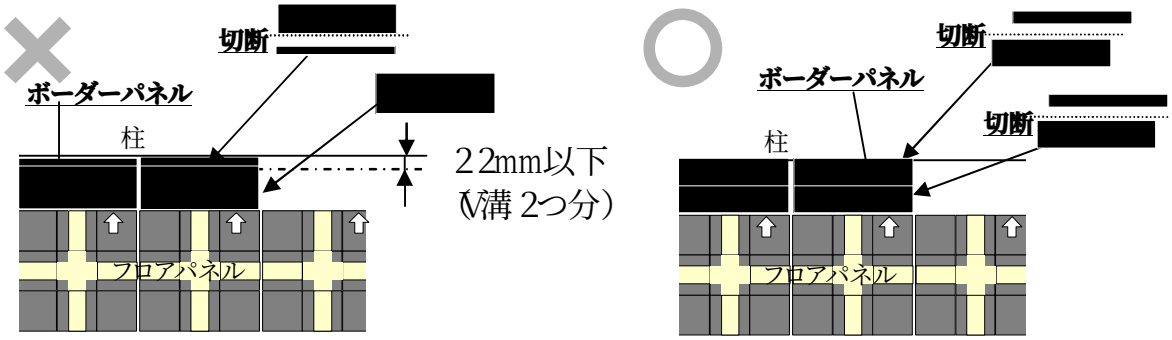


※測寸結果に対し、ボーダーパネルを1枚もしくは2枚並べた余り分の寸法にあわせボーダーパネルを切断加工します。

注意

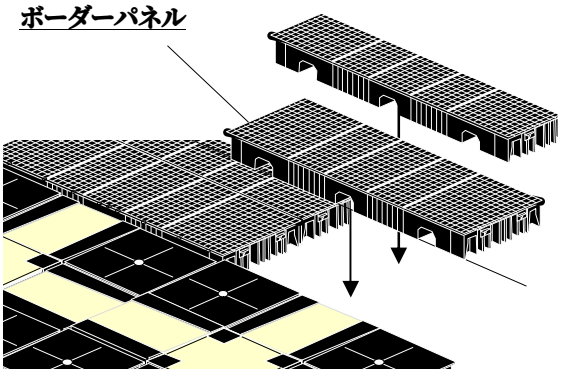
① 敷説するボーダーパネルと壁際との隙間を5～10mmになるようにしてください。隙間をあけないと、夏場の温度上昇により、フロアパネルがせりあがり、人がつまずく原因になります

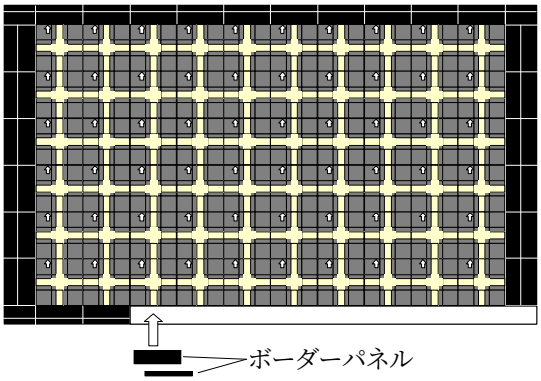
② 柱周りなどで切断するパネル寸法が短い場合は、下記のように処理します。



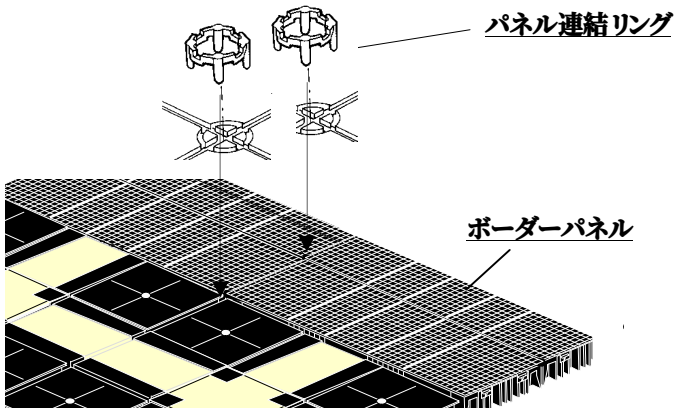
6 ボーダーパネルの敷設

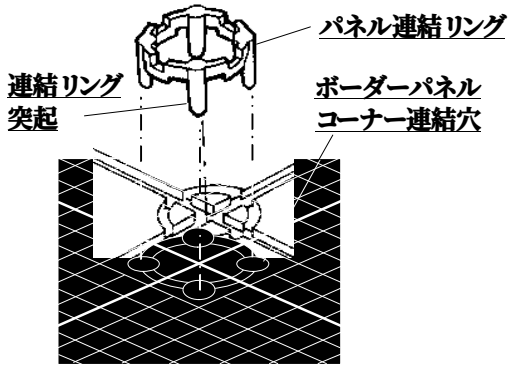
❶ ボーダー部用フロアパネルをボーダー（壁際）部に敷設します。



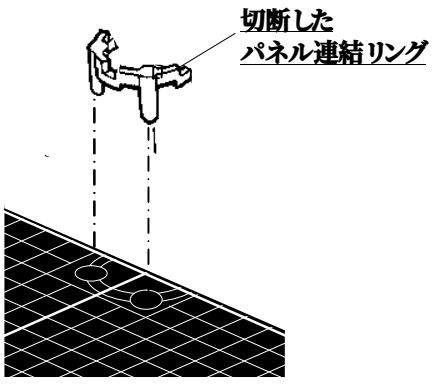


❷ 隣接するボーダーパネルをパネル連結リングにて連結します。
フロアパネル・ボーダーパネルの4つのコーナー付き合わせ部のコーナー連結穴にパネル連結リングの突起を挿入して連結します。





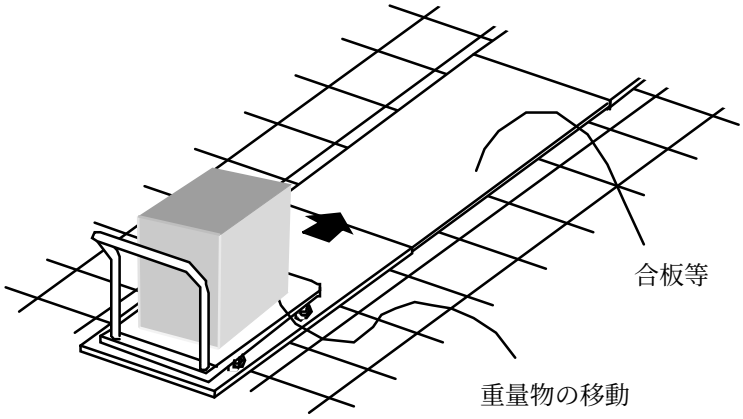
※壁際などでボーダーパネルが2コーナーだけの連結部（パネル連結リング挿入部が半分）の場合は、パネル連結リングをカッターなどで切断し、挿入します。



施工中及び施工後の機器等の搬入について

注意

① 機器などの重量物の搬入の際、搬入路に合板など（厚さ12mm以上）で十分な保護をし、行ってください。
～フロアパネルの破損・転倒・けがの原因となります～



7 壁面収納棚を設置する場合の施工

壁面収納棚を設置する場合、下記のご注意ください。

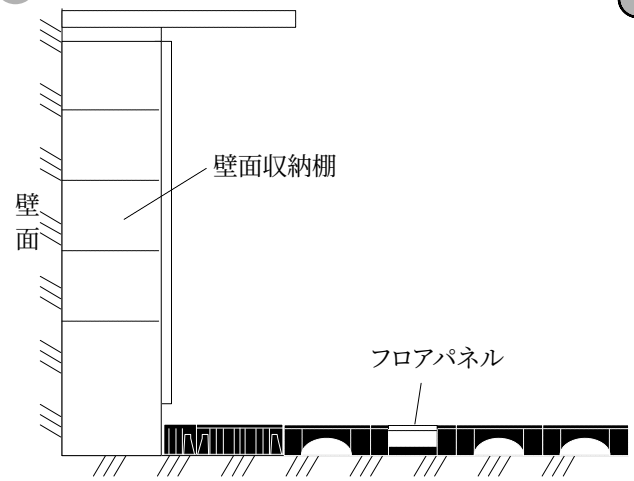
注意

① フロアパネル上に耐荷重を超える壁面収納棚などの什器などを設置しないでください。

② 1脚あたり1000Nを越える長期積載荷重がかかる時は、合板などで補強してください。

③ 壁面収納棚などの什器は、確実に固定し転倒防止処置を行ってください。

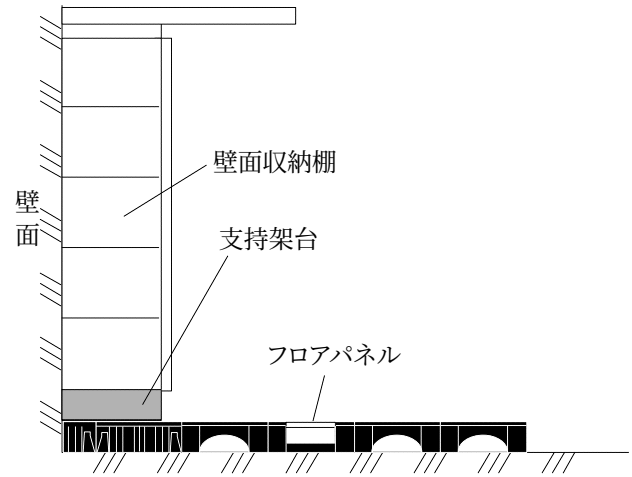
① 据付タイプの壁面収納棚の場合



注意

① 据付タイプの壁面収納棚の場合は、予め壁面収納棚を設置した後にフロア施工を行ってください。フロアパネル上に施工しないでください。

② 据置タイプの壁面収納棚の場合



注意

① 壁面収納棚の下に支持架台を取り付けてください。

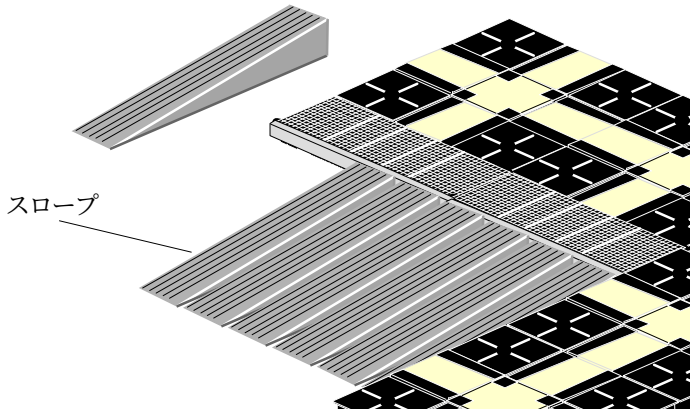
② ボーダーパネル1枚あたり1000Nを超える長期荷重がかかる場合は、養生板等で補強してください。

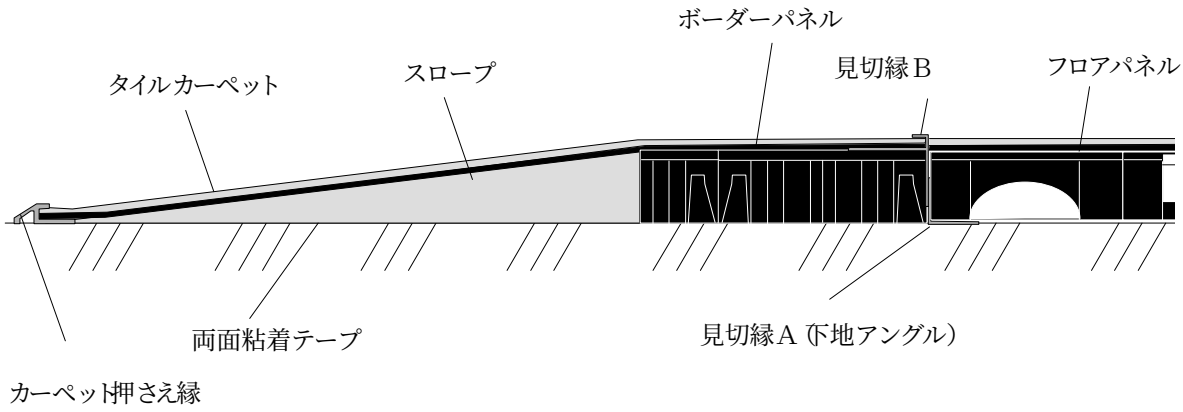
8 スロープ・かまちの施工例

施工図にしたがってスロープ・かまちを取り付けます。
下記はその施工の一例です。

❶ スロープの施工例

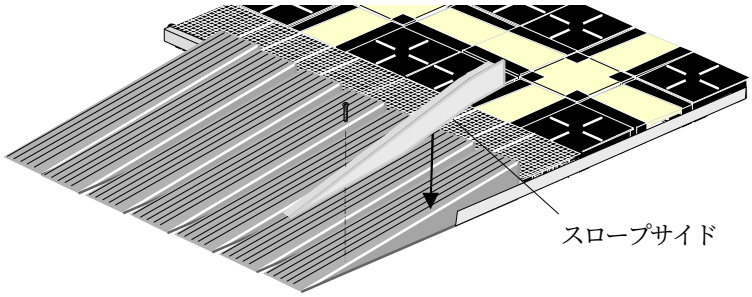
見切縁などはタッピンネジで固定し、スロープは両面テープを用いスラブ面とを固定します。また隣接するスロープ同志を表面より貼り付けます。





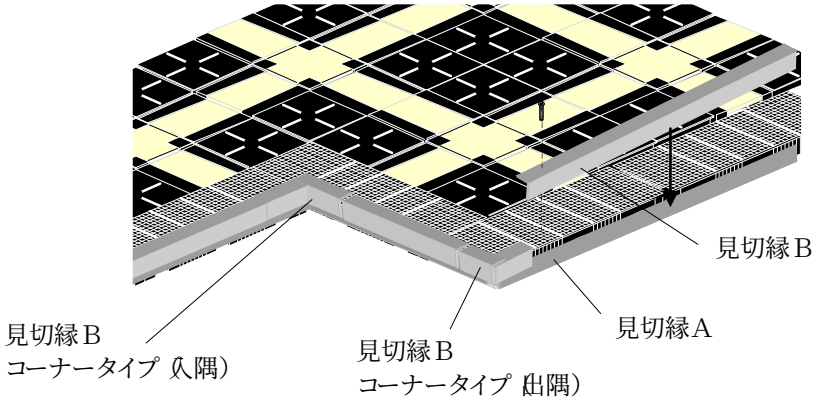
❷ スロープサイドの施工例

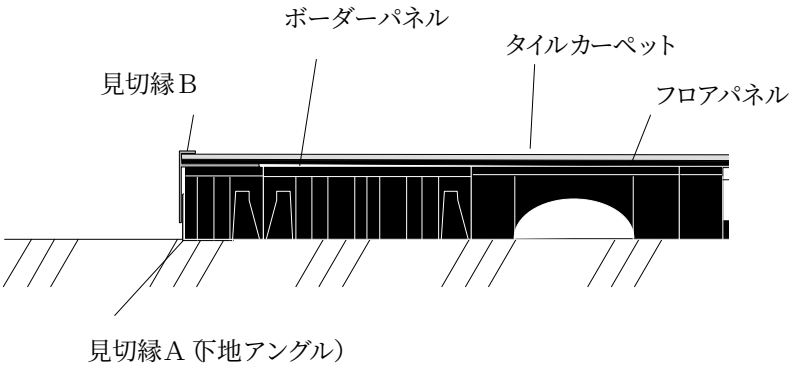
スロープサイドはタッピンネジでスロープに固定します。



③ かまちの施工例

かまち用各部材は、皿タッピンネジ（呼びM4　別売），両面テープ（全面貼り）等にて固定します。

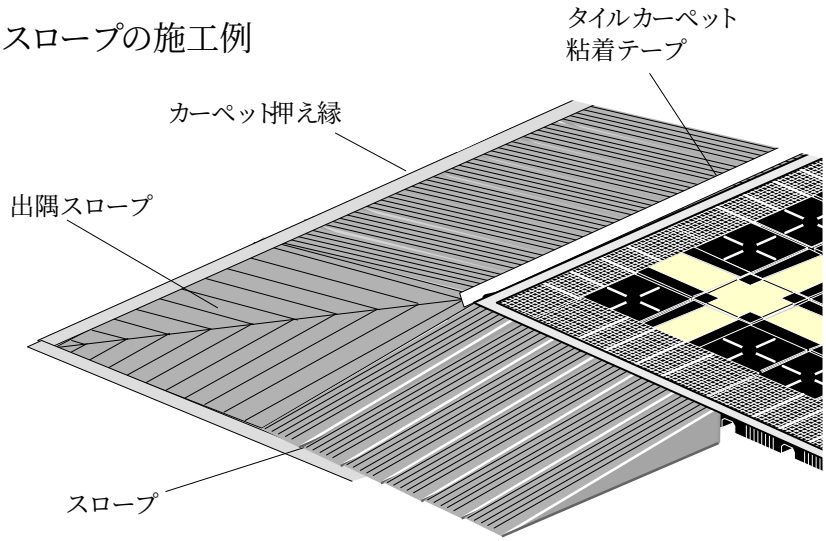




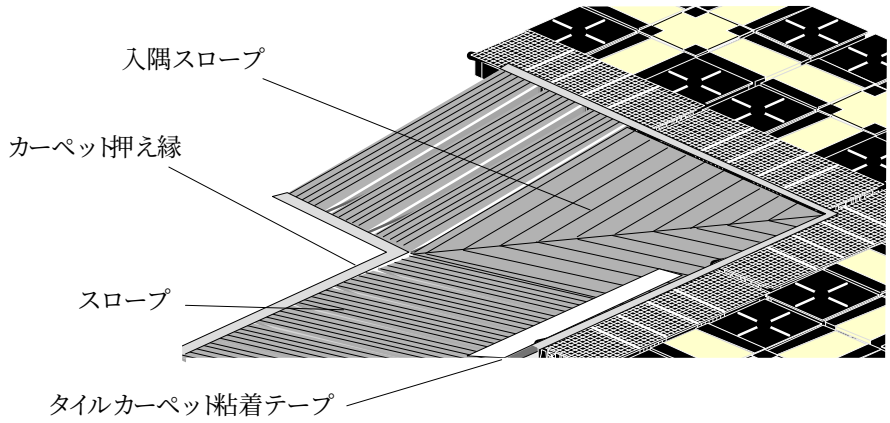
9 出隅スロープ・入隅スロープの施工例

施工図にしたがって出隅スロープ・入隅スロープを取り付けます。
下記はその施工の一例です。
各スロープはタイルカーペット粘着テープを用いスラブ面とを固定します。また隣接するスロープ同志を表面より貼り付けます。

① 出隅スロープの施工例



② 入隅スロープの施工例

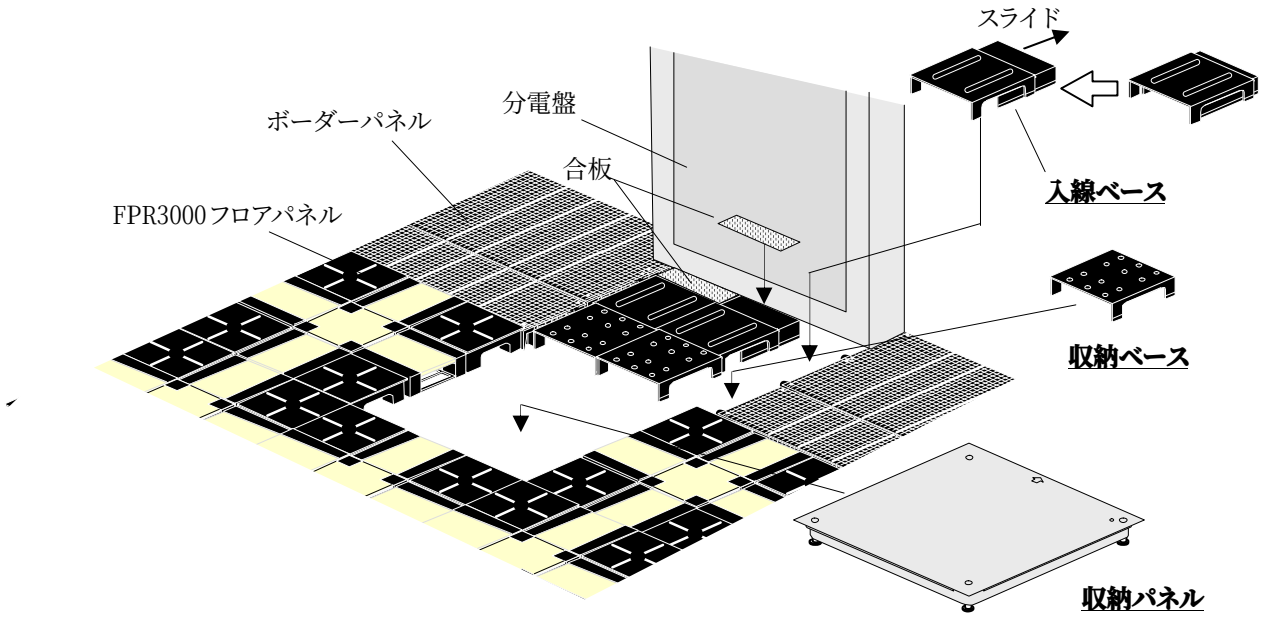


10 入線ベース・収納ベース・置敷収納パネル・FPZ3000フロアパネルの施工例

分電盤周辺などはケーブルが集中することから、配線スペースを大きくとるために入線ベース・収納ベース・置敷収納パネルまたはFPZ3000フロアパネルを敷設します。

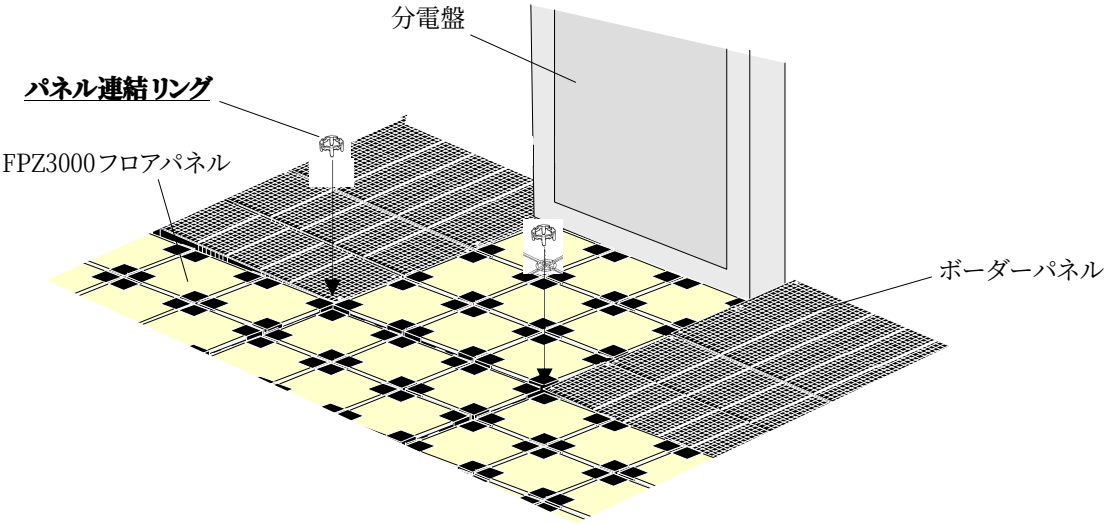
① 入線ベース・収納ベース・置敷収納パネルの施工例

分電盤周辺などのケーブルが集中部に入線ベース・収納ベースを敷設し、入線ベースは、壁際までスライドさせ、隙間を埋め、凹部に付属の合板を寸法に合わせ切断して入れます。



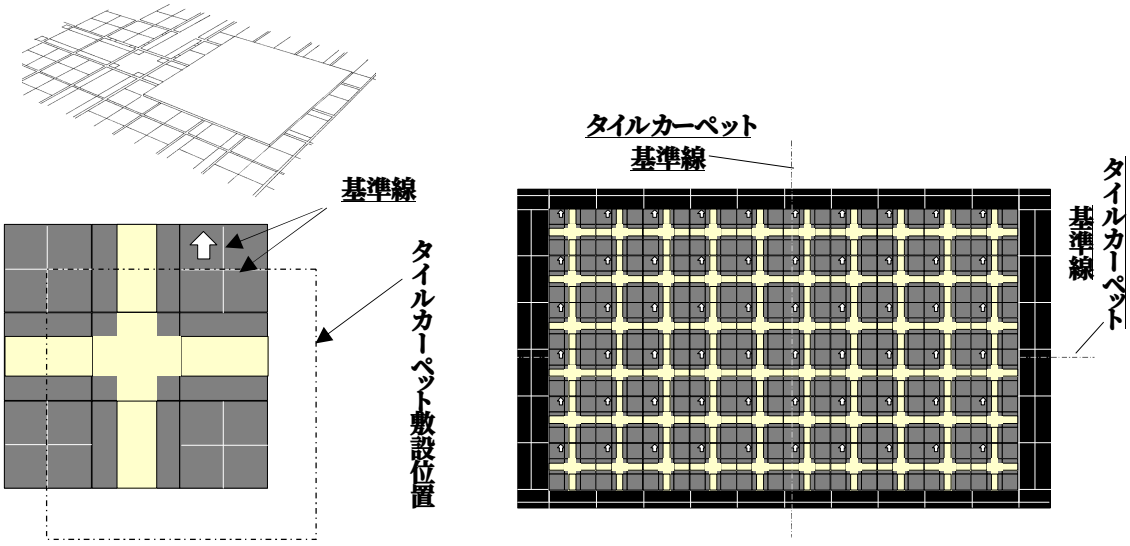
② FPZ3000フロアパネルの施工例

分電盤周辺などのケーブルが集中している箇所にFPZ3000フロアパネルを敷設し、付属のパネル連結リングにて連結させます。



11 タイルカーペットの敷設

① タイルカーペット敷設基準線の墨出しを行います。
タイルカーペットはずらし貼りとするため、墨出し線はフロアパネルの表面の基準線に合わせ、フロアパネル目地より約80mm程度ずらしてください。



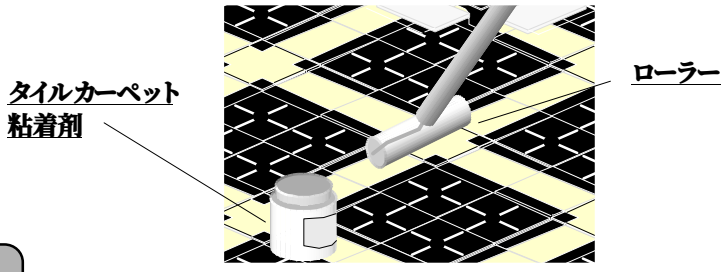
注意

① タイルカーペットは1対1貼りにしないでください。
目地や隙間が目立ちやすくなります。

施工手順（つづき）

② タイルカーペット粘着剤の塗布作業前に、フロア表面にチリやホコリがないか確認してください。あれば清掃してください。
そのままですと粘着力低下の原因となります

③ 敷設したフロアパネル表面全体にムラなくタイルカーペット粘着剤を市販のローラーにて塗布します。
塗布後、粘着剤の色が白から透明に変わるまで十分に乾燥させます。



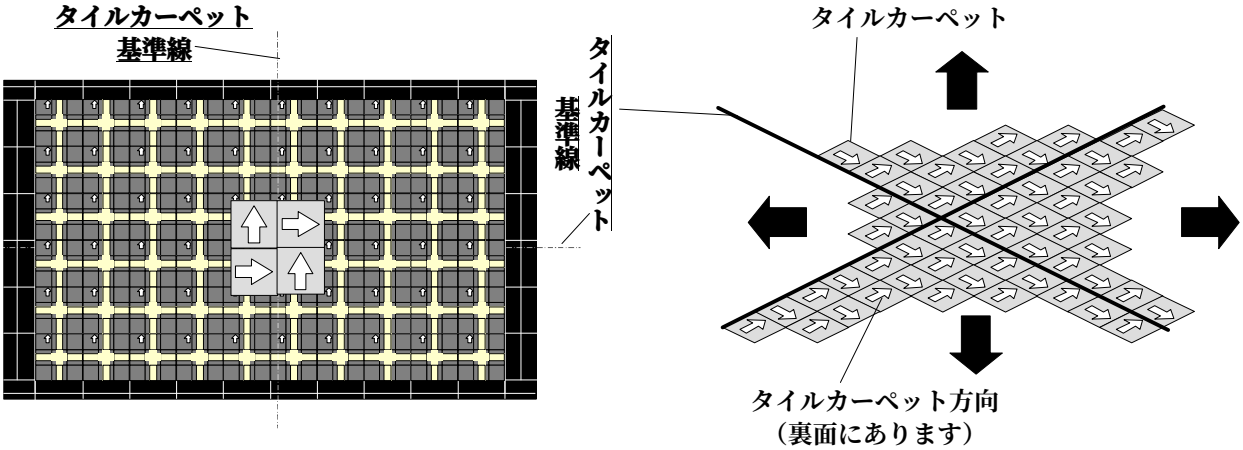
注意

① タイルカーペット粘着剤は、製品に記載の使用上の注意をよくお読みの上、用法・用量を守ってお使いください。塗布量が少ないと粘着性が弱くなり、タイルカーペットのズレの原因となります。目安として当社指定粘着剤を約 50g/㎡ 塗布してください。

② タイルカーペット粘着剤の塗布作業は、換気のよい状態で行ってください。

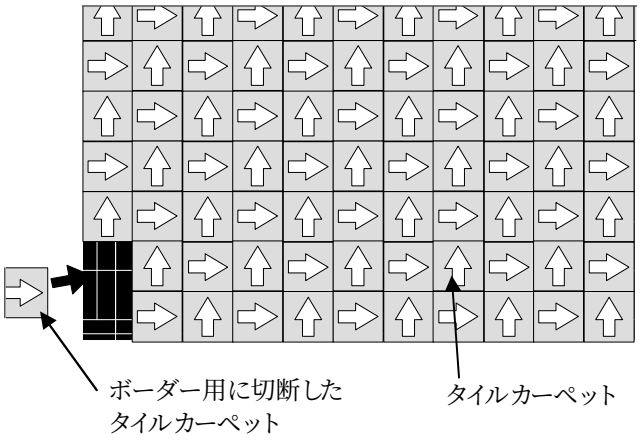
③ タイルカーペット粘着剤の養生（乾燥）をせず、すぐにタイルカーペットを貼ると粘着しません。
～カーペットがずれる原因となります～

④ タイルカーペット敷設基準線に沿ってタイルカーペットを敷設します。
次に斜め外側方向（➡ 方向）へ向かって順次敷設していきます。
タイルカーペットは市松貼りとしてください。タイルカーペットの向きは裏面の矢印方向で確認してください。



施工手順（つづき）

④ ボーダー（壁際）に敷設するタイルカーペットは、その位置の寸法に合わせカッターなどで切断し敷設します。



注意

① タイルカーペットは、目地隙間や詰め過ぎによるせりあがりがないよう敷設してください。

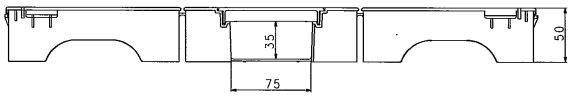
12 配線工事

フロアパネルのトレンチ部（溝部）に収納できるケーブル本数は下表の通りです。

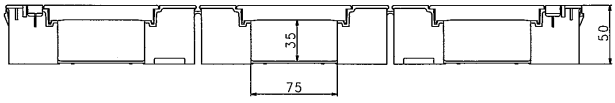
ケーブルの種類 ＼ 商品名				ワイヤリングフロア FPR3000	ワイヤリングフロア FPZ3000
種類	ケーブルの種類	ケーブルの外径	断面積	フロアパネルトレンチ部配線収納本数	フロアパネルトレンチ部配線収納本数
電力配線	VVR 1.6㎜ 3心	φ10.5㎜	86.6㎟	12本	36本
	VVR 2.0㎜ 3心	φ11.5㎜	103.9㎟	10本	30本
	VVF 1.6㎜ 3心	6.2×13㎜	80.6㎟	13本	39本
	VVF 2.0㎜ 3心	6.6×14㎜	92.4㎟	11本	33本
電話配線 情報配線	2対カット屋内線(0.4)	φ3.7㎜	10.8㎟	48本	144本
	10対構内用ケーブル(0.4)	φ7.0㎜	38.5㎟	13本	39本
	20対構内用ケーブル(0.4)	φ8.0㎜	50.3㎟	10本	30本
	CAT5E LANケーブル 4対	Φ5.5㎜	24㎟	21本	63本
	CAT5E LANケーブル 24対	Φ18.5㎜	269㎟	1本	3本
フロアパネルトレンチ部（溝部）有効配線スペース				2,625㎟（75×35㎜）	7,875㎟（75×35㎜×3）

注1） 電力ケーブルを収納する場合収納率は、施工性・電気的安全上40%以下で算出してあります。
注2） 電話ケーブルを収納する場合収納率は、施工性・電気的安全上20%以下で算出してあります。
注3） LAN機器等を収納する場合、収納可能機器寸法は75×32㎜となります。

【FPR3000】



【FPZ3000】



施工手順（つづき）

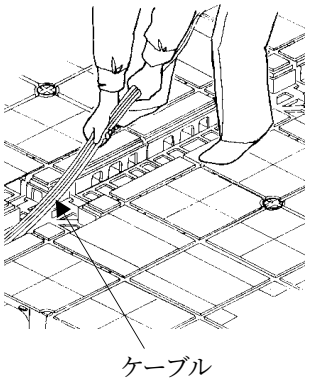
❶ 配線経路にしたがって、カーペット及びトレンチカバー（ストレート部・クロス部とも）を取り外します。

注意

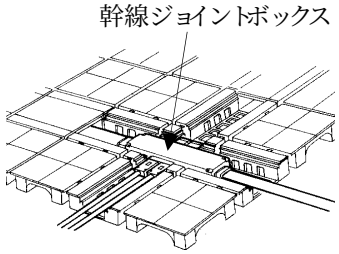
① 剥がしたタイルカーペットにチリ・ホコリがつかないようにしてください。
粘着力の低下につながります。

❷ フロアパネル床下空間へ配線します。
分電盤などから主幹となる電力線・情報線を引き出します。その際、電力線にはジョイントボックスなど、情報線にはゾーン情報モジュラジャックなどを用いながら、ケーブルを敷設します。各コンセントには、ジョイントボックスから分岐した電力線を敷設します。情報線については、ゾーン情報モジュラジャックから分岐したLANケーブルをインナーコンセントや情報用モジュラジャックに接続します。電力線と情報線が交差するところにはセパレートブリッジを使用します。分電盤からフロアパネルへのケーブルの入線には入線ベース、電話端子台や余長ケーブルの収納には収納ベースを使用します。（施工手順 **10** をごらんください）
太いケーブルが交差する場合には、スチール製トレンチカバー(クロス部)を使用します。

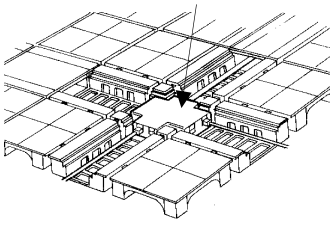
【ケーブルの敷設】



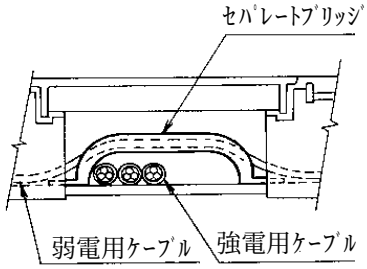
【電力線】



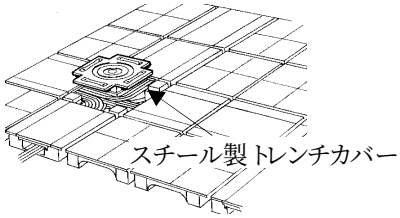
【情報線】



【セパレートブリッジ取付部断面図】



【スチール製トレンチカバー（クロス部）】



注意

① 強電・弱電は必ず分離して配線してください。

② ケーブル長は将来の配線替えに対応できるようにある程度の余長をとって配線してください。

施工手順（つづき）

❸ フロアパネル・タイルカーペットをもとのとおりに取り付けます。

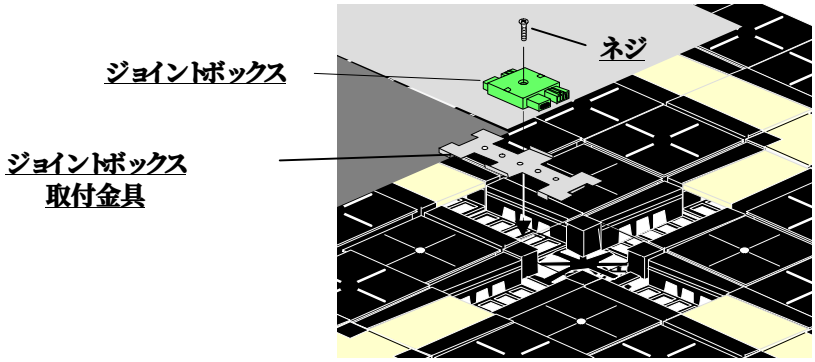
注意

① タイルカーペット・フロアパネルを元に戻す際、元の位置・元の方向に合わせて取り付けてください。タイルカーペットの織目違いやフロアパネルのガタツキの原因になります。

13 ジョイントボックスの取付

❶ トレンチカバーを取り外し、ジョイントボックス取付金具（NE36910）を、フロアパネルの配線溝に取付ける（別途：NE36910 施工説明書参照）

❷ ジョイントボックスをジョイントボックス取付金具にネジで締付け固定します。

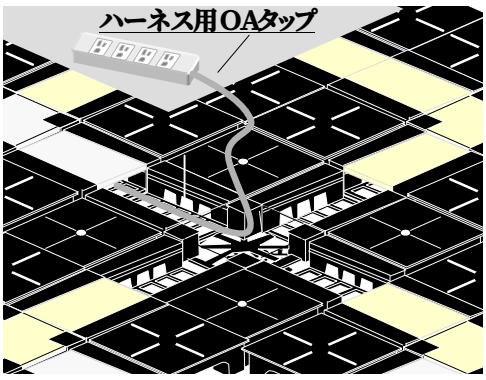


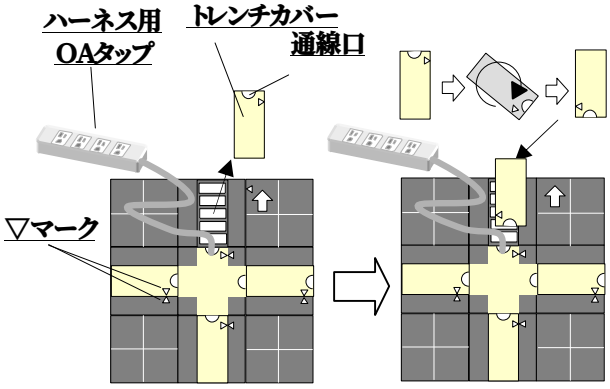
14 ハーネス用OAタップのフロア上への取り出し

床下の当社製ハーネスジョイントボックスに接続したハーネス用OAタップの床上への取り出し方法は下記の通りです。

❶ ハーネス用OAタップを取り出す箇所のタイルカーペット及びトレンチカバーを取り外します。

❷ トレンチカバーを反転させ円形の通線口を形成し、ハーネス用OAタップのケーブルを通線口に挟み込むようにして、トレンチカバーを取り付けます。





※初期状態（通線口がすべて半円形状）に戻すにはフロアパネル本体とトレンチカバーの▽マークをすべて合わせます。

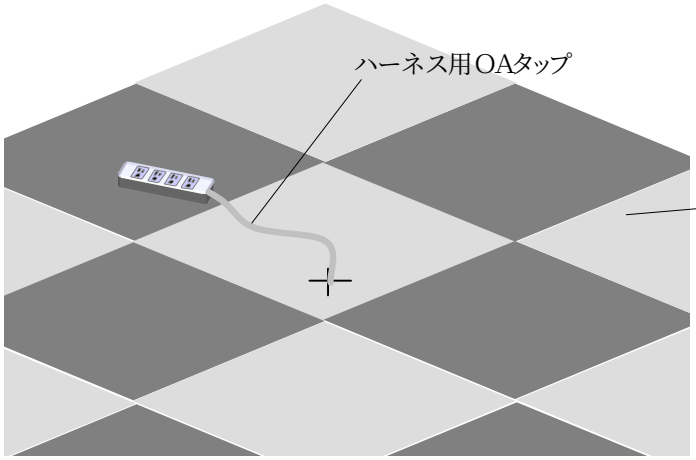
注意

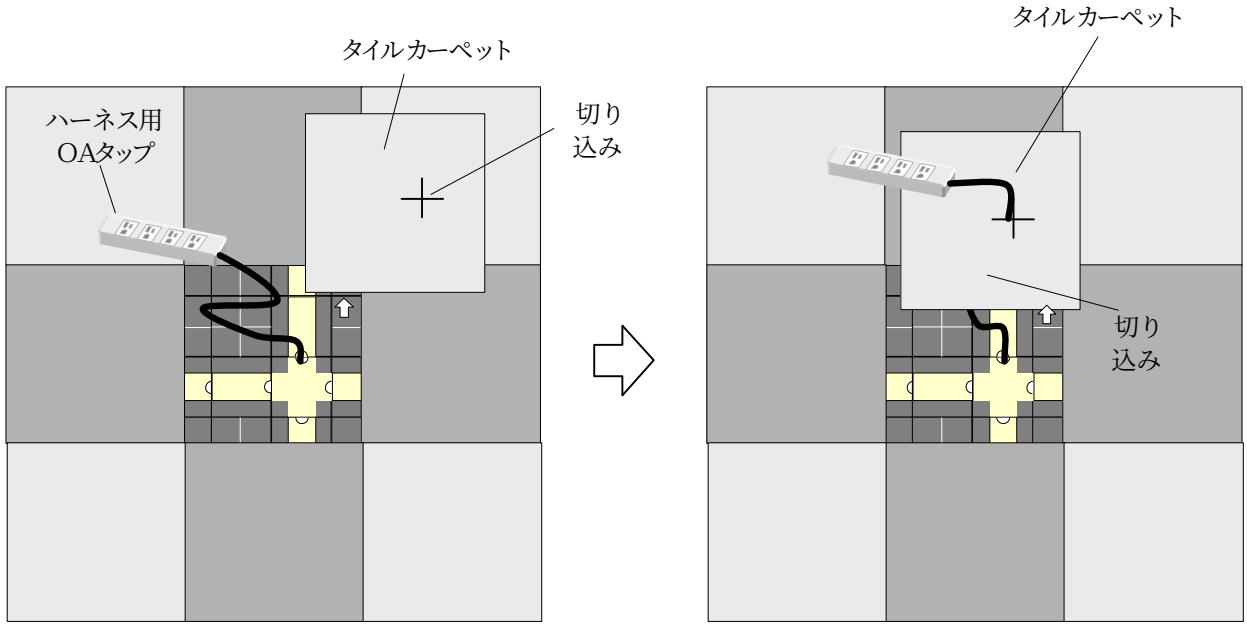
① 通線しない場合は、フロアパネル本体とトレンチカバーの▽マークを合わせ、半円穴形状にしてください。ハイヒールなどの落ち込みのおそれがあります。

② **通行の障害になるような場所に、OAタップの取出しはしないでください。**
～人がつまづく原因となります～

施工手順（つづき）

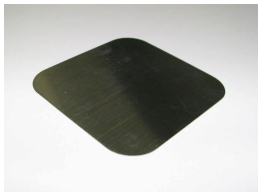
③ ハーネス用OAタップを取り出す箇所のタイルカーペットにカッターなどでハーネス用OAタップのコンセント本体部分が通るように切り込み（ハーネスキャップが通る位）を入れます。
切り込みにハーネス用OAタップを通しながら、タイルカーペットを元の位置に敷設します。





ご注意！

① 通線口が不要になった場合は、カバーを90°回転させて通線口を半円型に戻してください。現場状況により、半円型に戻せない場合は、ワイヤリングフロア通線口塞ぎプレート（NE88420）で、塞いでください。
～ハイヒールが落込み、ケガをする原因となります～



●ワイヤリングフロア
通線口塞ぎプレート
（NE88420）
● ステンレス製
● サイズ 80×80×0.5ｔ

15 各種ワイヤリング機器の取付

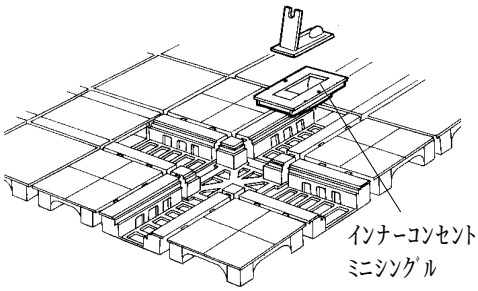
当社製の各種ワイヤリング機器が取り付けできます。下記以外の品種や取付条件などについては、当社フロアシステムカタログをご参照ください。また施工・取り扱いに関することについての詳細は取扱説明書をご参照ください。

各アウトレットに応じた固定ベースとフロアパネルを構成するブロックベースを入れ替え、結線後、アウトレットを取り付けます。

❶ タイプFPR用インナーコンセント（角Ⅱ型を除く）

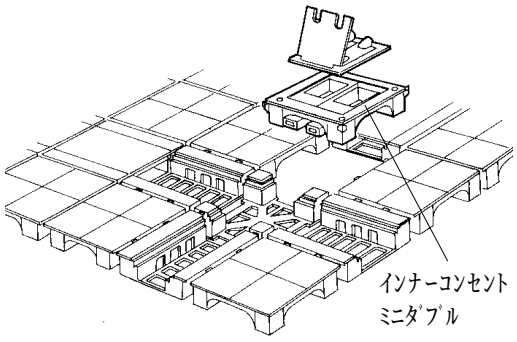
(1) ミニシングルコンセント（ハーネス配線用、一般配線用とも）

コンセント取付部のトレンチカバー（ストレート部）を外し、フロアパネル本体の溝に取り付けます。
タイルカーペットを切り取ります。



(2) ミニダブルコンセント（ハーネス配線用、一般配線用とも）

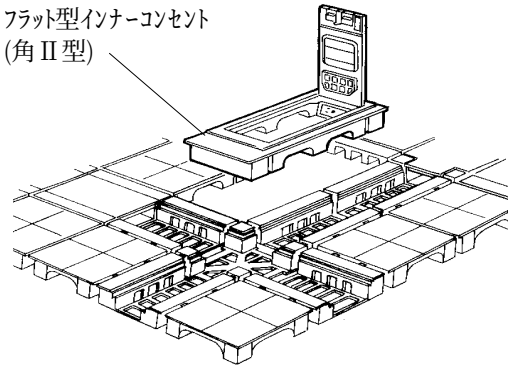
電工ナイフ等でコンセント取付部のブロックベースを取り外し、ダブルコンセントをはめ込むようにして取り付けます。
タイルカーペットを切り取ります。

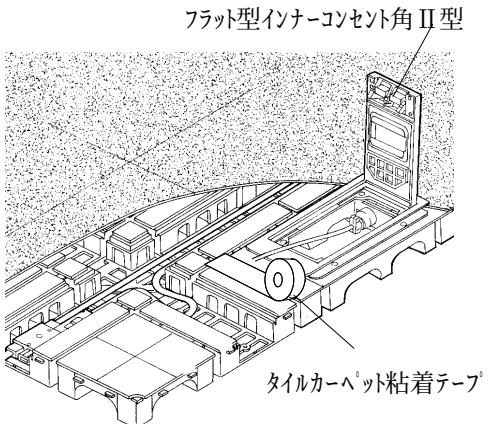


❷ フラット型インナーコンセント（角Ⅰ・Ⅱ型）、標準型インナーコンセント（角Ⅰ・角Ⅱ型）

角Ⅰ・Ⅱ型はフロアパネルの連続したブロックベースを2個分、それぞれ電工ナイフ等で取り除きます。

インナーコンセントを所定位置にセットし、インナーコンセントブロックとタイプFPのブロックとまたがってタイルカーペット粘着テープを貼りつけます。
タイルカーペットを切り取ります。





施工手順（つづき）

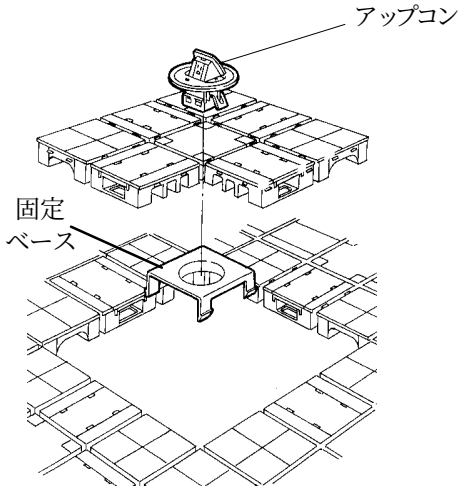
❸ アップコン、フラット型アップコン、ハイテンション、 ローテンション、ミニコンセント、ミニテレホンモジュラジ ャック、ミニ通線カバー

フロアパネルのブロックベース1個分を電工ナイフ等で切り取ります

固定ベースをはめ込むようにしセットし、固定ベースとタイプFPのブロックとまたがってタイルカーペット粘着テープを貼りつけます。

アップコン、ハイテンション・ローテンション、丸型インナーコンセント、フリーアクセスフロア用ミニコンセントミニテレホンモジュラジャック、ミニ通線カバーを取り付 けま す。

タイルカーペットを切り取ります。



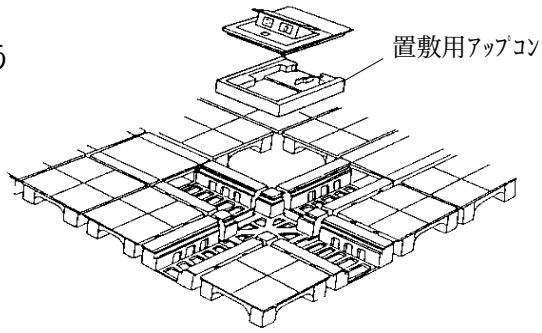
❹ 置敷用アップコン（H50用）

固定ベースをフロアパネルの溝にはめ込むようにセットします。

置敷用アップコンベースと、タイプFPブロックとまたがって、タイルカーペット粘着テープを貼りつけます。

アップコンを取り付けます。

タイルカーペットを切り取ります。



■ メンテナンス

●タイルカーペットは定期的にメンテナンスを行ってください
～汚れのこびりつきの原因となります～

●フロアパネル（タイルカーペット）の一般的な保守方法の標準を下表に整理しましたので参照下さい。

区　域		スイーパ	バキュウーム クリーニング	ボンネット又は パウダークリーニング
極重歩行域	外部より直接土砂の持込がある。	——	1回/日	2回/月
重歩行域	出入口、EVホール メイン通路	——	1回/日	1回/月
中歩行域	部署内通路、小出入口	1回/日	2回/週	1回/2ヶ月
軽歩行域	応接室など歩行が少ないところ	2回/週	1回/週	1回/6ヶ月

施工自主検査基準書／成績書

■施工後に仕上り状態をチェックするのにご使用ください。（必要な場合はコピーしてお使いください）

ワイヤリングフロアタイプFPR3000/FPZ3000施工チェック

工事名		施工場所		検印	検印
施主		施工業者			
設計		総合判定	合　格		
建築			不合格		

		チェック項目	結果	処置
ｸｯｼｮﾝｼｰﾄ	1	床面に部分凹凸がありクッションシートに異常な浮きがないか		
	2	ｸｯｼｮﾝｼｰﾄは、隙間なく敷設はされているか（隙間 5mm以下）		
	3	継ぎ部は重なっていないか		
	4	ｸｯｼｮﾝｼｰﾄに、破れはないか		
ﾊﾟﾈﾙ	5	隙間は、規格以内か（0.6mm以下）		
	6	ﾊﾟﾈﾙの段違いは、規格以内か（1mm以下）		
	7	ﾊﾟﾈﾙのｶﾞﾀﾂｷはないか		
上がり框部	8	ｶﾞﾀﾂｷは、ないか		
スロープ部	9	ﾊﾟﾈﾙとｽﾛｰﾌﾟとの間に異常な段差はないか		
	10	ｶﾞﾀﾂｷはないか		
	11	仕上げ材のふくれなどないか		
施工低順	12	ﾊﾟﾈﾙの向き（矢印）は揃っているか		
	13	連結リングがきちんと挿入されているか		
	14	連結リングは　浮きがないか		
	15	連結リングが変形していないか		
	16	トレンチカバーが浮いていないか		
	17	トレンチカバーがきちんと入っているか		
	18	トレンチカバー下のケーブルがきちんと収納できているか		
	19	ﾊﾟﾈﾙ面に埃が付着していないか		
	20	タイルカーペット用粘着材（標準品）は適量使用しているか		
	21	粘着材が乾燥（透明）してからタイルカーペットを貼りつけたか		
仕上り	22	上から踏んで/歩いて異常がないか		
	23	仕上げ材の汚れはないか		
	24	仕上げ材は市松模様（又は指定通り）になっているか		
	25	仕様書、施工図面どおりに仕上がっているか		
廃材処理	26	廃材は適切に処理されたか（業者、責任者は明確になっているか）		
	27	接着剤及び接着剤の付着したウエスなどは産廃物として処理したか		

場所	指摘事項	処置	完了日

ワイヤリングフロア撤去・廃棄に関して

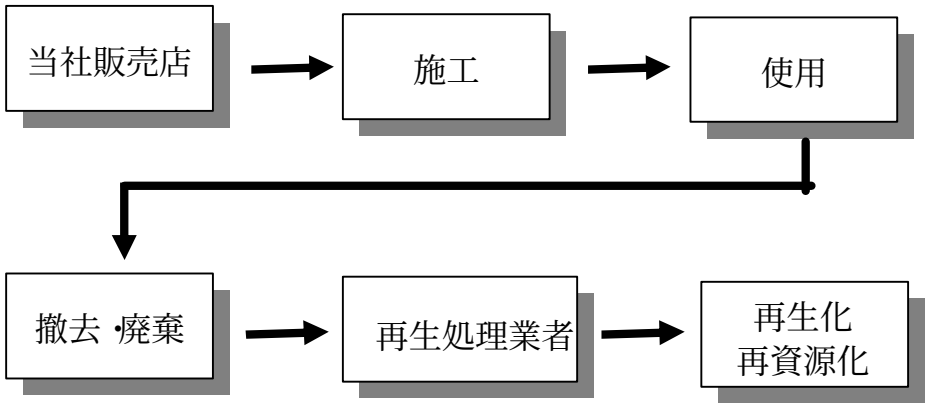
ワイヤリングフロアFPR3000/FPZ3000は、当社環境方針の基本理念に基づいた環境調和型商品です。
本製品の撤去・廃棄時には、下記の処理方法を推奨致します。

【処理方法】

●本体パネル材質は再生PET１００%であり、再生利用（リサイクル）が可能です。
そのため、廃棄パネルは、分別回収し、再生処理業者で再生・再資源化されることをおすすめいたします。

＊ワイヤリングフロアFPR3000/FPZ3000は、環境に悪影響を及ぼす有害物質の溶出、含有は一切ありません。

【処理のフローチャート】



●本製品の撤去・廃棄時、ご不明な点がございましたら当社販売店にご相談ください。

●当社は、フルワイヤリングフロアシステムの撤去・廃棄費用が含まれた「Tリースパック」のご提案をしております。

リースに関するお問い合わせは

三井リース事業株式会社

〒103-0027
東京都中央区日本橋1丁目4番1号
TEL. (03)3517-7601　ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ）
FAX. (03)3517-7790

お問い合わせ

■ 商品に関するお問い合わせは

パナソニック株式会社　パワー機器ビジネスユニット
〒514-8555　三重県津市藤方1668番地
Ⓒ Panasonic Corporation 2012

パナソニック お客様相談センター
電話　0120-878-365
FAX　0120-878-236

■ パナソニック OAフロアホームページアドレスのご案内

http://www2.panasonic.biz/es/densetsu/haisen/oa_floor/product/wire.html